

仙台市衛生研究所

情報広場

— infosquare —

第38号 2016年10月

*仙台市衛生研究所ホームページ:

<http://www.city.sendai.jp/bisebutsu/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/ese/index.html>

今回は 2016年秋に流行している RSウイルス感染症についての特集です

RSウイルスって?

RSウイルス感染症は、RSウイルス(RSV)への感染による呼吸器感染症で、乳幼児は2歳までにほぼ100%罹患するとされています。

RSVは1956年に呼吸器症状を呈したチンパンジーから発見されたパラミクソウイルス科に属するRNAウイルスで、培養細胞に特徴的な合胞体(syncytium)を作ることから、respiratory syncytial virusと名付けられました。RSVのすべての株は単一の血清型に属していますが、表面蛋白(G蛋白)遺伝子の解析により大きく2つのグループ(AとB)に分かれており、各々がさらにいくつかのサブグループに分かれることが報告されています。

RSウイルスに感染するとどうなるの?

RSウイルスの感染を受けてから3~5日間ほどの潜伏期間の後に、発熱(通常38℃以上の高熱)、咳、鼻汁などの上気道炎症状が現われ、通常は約1週間の経過で回復しますが、乳幼児や基礎疾患を有している人では、咳嗽や呼吸困難などの下気道炎症状に移行し重症化する率が高くなるとされています。

毎年、季節性インフルエンザに先行して、秋季から冬季に流行を繰り返しますが、最近では流行開始時期が早まり、8月末頃から患者が増加し始めます。



RSウイルス感染症の特徴として、母体からの移行抗体が存在する乳幼児期にも感染が成立すること、一度の感染では終生免疫は獲得されず再感染を繰り返すことなどが知られており、このことが患者数の増加につながっているとされています。

また、最近では高齢者施設での集団感染の原因ウイルスとして報告されており、高齢者に対しても乳幼児と同等の注意および対応が必要となります。

仙台市での発生状況は？

仙台市内におけるRSウイルス感染症の発生も年々早まる傾向にあり、1定点医療機関当たりの患者報告数は2016年には第34週(8月22日～8月28日)に1.0人を超え、第40週(10月3日～10月9日)時点では**過去5年間の同時期と比較してかなり多い状況**が続いています(図1)。

宮城県や全国においても、仙台市での発生状況と同様、8月下旬から患者報告数が増加し始めています(図2)。また、2016年第40週時点、2015年及び2014年の患者報告数を見ると、**全国に比べ、仙台市及び宮城県が多い傾向**にあります(図3、図4)。

市内における2016年第1週から第40週までの年齢別患者報告数を見ると、**0から2歳児が全体の84%**を占めています(図5)。

なお、0から2歳児が全体に占める割合は、2015年では85%、2014年では80%でした。

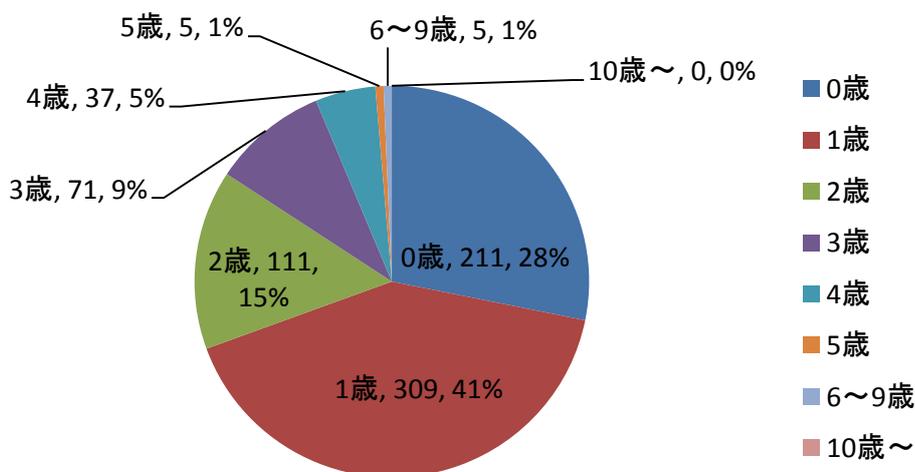


図5 2016年RSウイルス感染症患者報告数 年齢分布 (仙台市内)

市内におけるRSウイルス感染症とインフルエンザの流行時期について、2014年第1週から2016年第40週までの定点当たり患者報告数の推移を見ると、RSウイルス感染症がインフルエンザに数週先行して増加する、もしくはRSウイルス感染症が減少した頃にインフルエンザが増加し始める状況にありました(図6)。

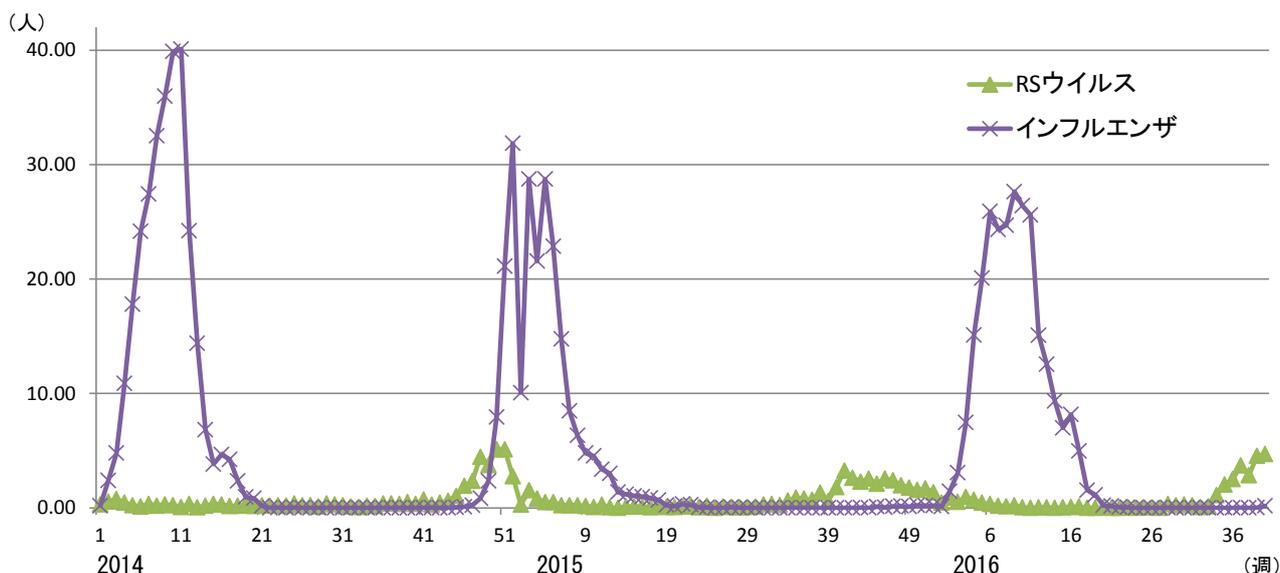


図6 RSウイルス感染症とインフルエンザの定点当たり患者報告数 (2014年第1週から2016年第40週まで、仙台市内)

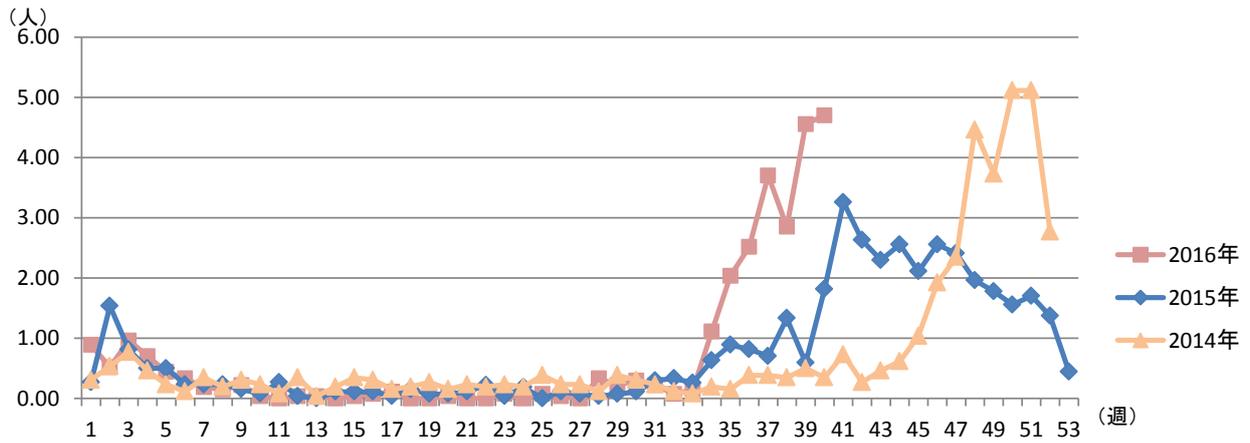


図1 仙台市内におけるRSウイルス感染症定点当たり患者報告数(年別)

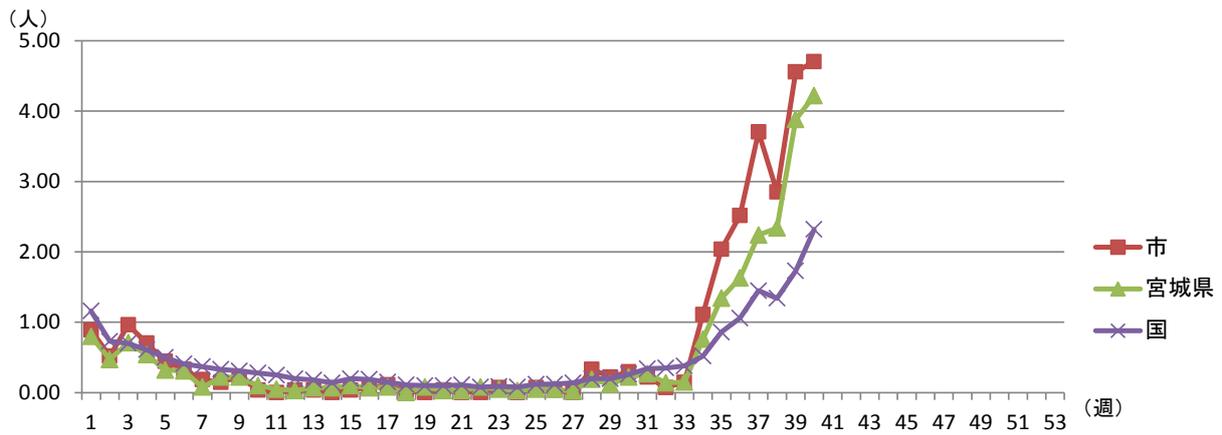


図2 2016年RSウイルス感染症定点当たり患者報告数(市・県・国)

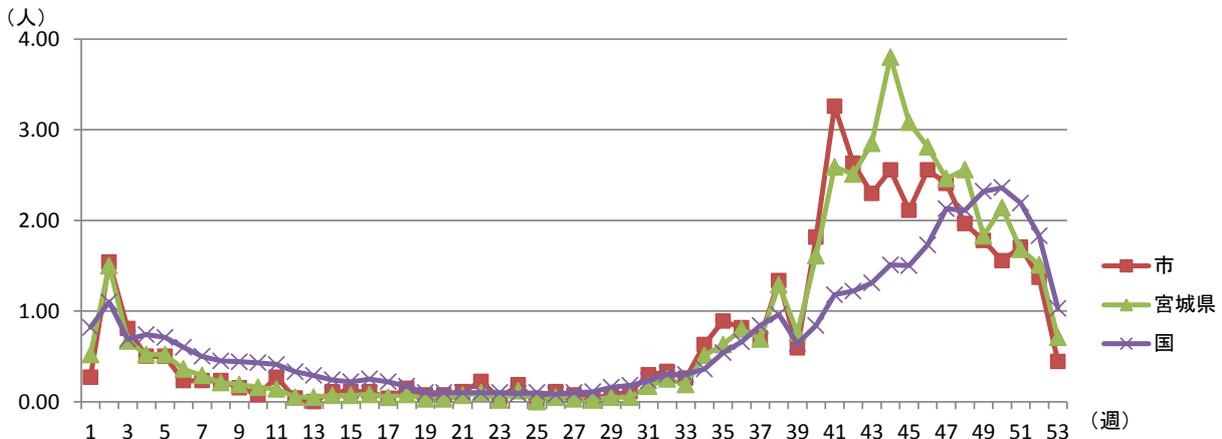


図3 2015年RSウイルス感染症定点当たり患者報告数(市・県・国)

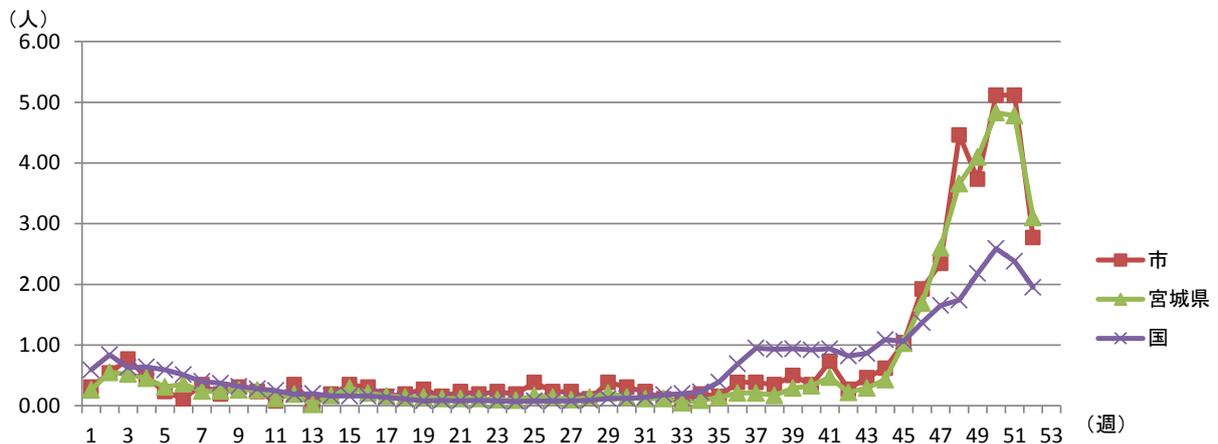


図4 2014年RSウイルス感染症定点当たり患者報告数(市・県・国)

衛生研究所のお仕事は？

RS ウイルス感染症は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で、5類感染症の小児科定点報告疾病(全国約 3,000 カ所の小児科定点医療機関から診断した患者数を報告する疾病)とされています。

仙台市衛生研究所では市内の 27ヶ所の小児科定点医療機関から仙台市保健所各支所を通して集まる患者報告数を集計し、宮城県及び国に報告しています。

また、2ヶ所の病原体定点医療機関で RS ウイルス感染症と診断された患者の咽頭ぬぐい液を採取していただき、当研究所での分離・同定または遺伝子検出を行い、国立感染症研究所に報告するとともに、検出した RS ウイルスについては遺伝子型別を行い、流行状況の把握に努めています。



2016 年仙台市衛生研究所 RS ウイルス検出状況(10 月 14 日時点) : RSV TypeBA 4件

予防方法は？



RS ウイルスに対する抗ウイルス薬は無く、RS ウイルス感染症の治療は基本的には対症療法を行います。また、予防方法は、RS ウイルス感染症の感染経路が**飛沫感染**と**接触感染**であることから、0歳児と1歳児に日常的に接する人は、RS ウイルス感染症の流行時期はもちろんのこと、流行時期でなくても、咳などの呼吸器症状がある場合は、飛沫感染対策として**マスクを着用**して0歳児、1歳児に接することが大切です。

接触感染対策としては、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹸による手洗いか又はアルコール製剤による**手指衛生を励行**します。

その他の予防方法としては、遺伝子組換え技術を用いて作成されたモノクローナル抗体製剤の投与があり、重篤な下気道炎症状の発症の抑制が期待できますが、投与対象患者は限定されています。



参考情報

仙台市ホームページ「RS ウイルス感染症」

<http://www.city.sendai.jp/kenkoanzen-kansen/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/kansen-sho/shippebetsu/kansensho/rsvirus.html>

国立感染症研究所 感染症発生動向調査 週報(IDWR)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

※IDWR2016 年第 38 号 注目すべき感染症「RS ウイルス感染症」

厚生労働省ホームページ「RS ウイルス感染症 Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html